

## ZANDEN Model 120 の展開(73) ーベーターヴェンを聴き直す(8)ー

### 1. 始めに

前報(72)に引き続き、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤を聴き直していきます。

### 2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力し、アンプは Langivin 6V6pp を使用しています。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

音源としては、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤から選んでいきます。

今回は、ベーターヴェンのピアノソナタの下記を選定しました。

**EURODISK 88826MK**

**Sonata foer Klavier Nr.3 c-dur op 2, 3**

**Sonata foer Klavier Nr.4 Es-dur op 7**

**Svjatoslav Richter**

上記は下記で報告しています。

[アナログ再構成後の活用\(22\)](#)

### 3. Model 120 設定条件の試聴結果

Model 120 の設定は、ZANDEN 社から提供されたリストを参考にして選択していきます。

EURODISK 盤ということで、TELDEC、逆相、第 4 時定数 Mid で聴いていきます。

**Sonata foer Klavier Nr.3 と Sonata foer Klavier Nr.4** は、ともにベートーヴェンの初期のピアノソナタです。

ジャケットには 1975 年ウイーンでの録音と記載があり、おそらくベーゼンドルファーと思われるピアノへのリヒテルの力強い打鍵が分かります。 前回は、LP-12 のフォノケーブルの交換とアナログアキュライザーの装着の後でしたが、その後の ANDEN Model 120 の導入などの効果が加わって、様変わりしており、リヒテルがベートーヴェンはかくあるべきという主張を色濃く出している演奏です。

#### 4. まとめ

前回の試聴以降、前報(24)で報告しましたように ZANDEN Model 120 の導入などの効果があって、上記の曲の演奏のニュアンスがよく表現できるようになりました。

以上